

ウ 資源循環 ～愛知県廃棄物処理計画など～

廃棄物の減量化や資源化を推進し、また、最終的に残った廃棄物の適正な処理を確保するため、2022年2月に**愛知県廃棄物処理計画**を策定
県民、事業者、市町村、県等がそれぞれの責任と役割を認識し、相互に協力、連携して取組を推進

3Rの促進

各種リサイクル法の普及啓発、環境学習の促進、ごみゼロ社会推進あいち県民会議

排出事業者・処理業者に対する廃棄物の適正処理と監視指導の徹底

不適正処理の未然防止（監視パトロールなど）、排出事業者責任の徹底、優良産業廃棄物処理業者の育成、

非常災害時等における処理体制の構築

処理に係る基本方針（市町村連携、分別・選別の徹底と再資源化促進、民間との連携）

循環ビジネスの振興

あいちサーキュラーエコノミー推進プランの策定、あいち資源循環推進センターによる相談・技術支援

プラスチックごみ削減の推進、食品ロス削減の推進

ウ 資源循環 ～循環ビジネスへの支援～

○ 循環ビジネスの発掘・創出、事業化から円滑な事業継続まで、連続的で切れ目なく支援。

循環ビジネスの発掘・創出

- ・循環ビジネスセミナーや、環境先進企業の見学会等を実施する「循環ビジネス創出研究会」を開催
- ・循環ビジネス創出コーディネーターによる相談・技術指導
- ・Web「あいち資源循環ナビ」による情報提供



循環ビジネス創出研究会（現地見学会）

循環ビジネスの事業化

- ・先導的で効果的なリサイクル施設等の整備や循環ビジネスの事業化検討に対して補助

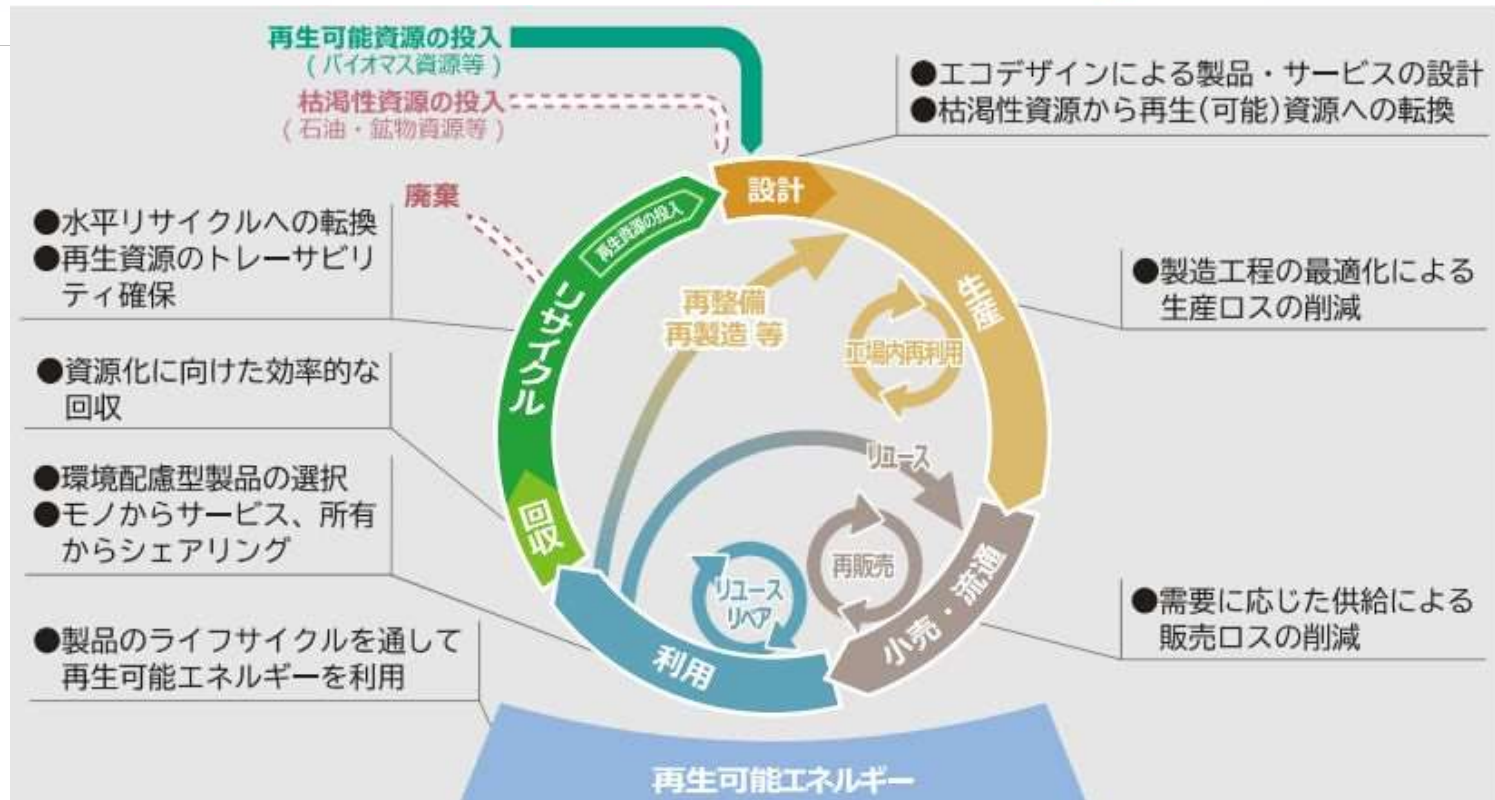
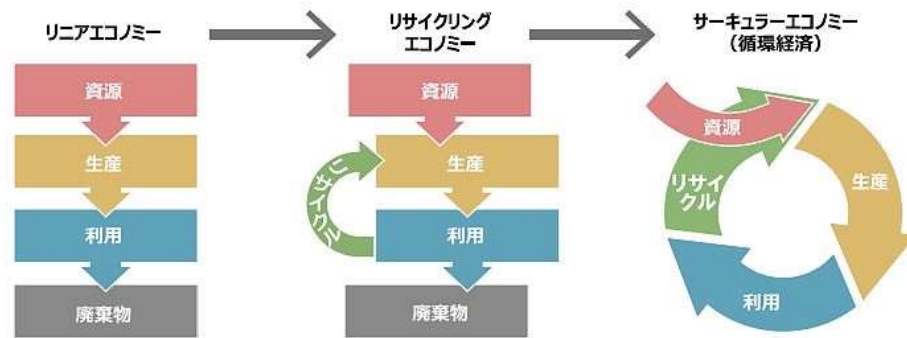
情報発信など事業の継続支援

- ・県庁西庁舎1Fに展示コーナーを設置
- ・「愛知環境賞」として優れた環境技術や環境活動を表彰し全国へ発信
- ・企業展示会に、愛知県が環境ビジネスコーナーを設け、中小企業のPRをサポート



西庁舎1F 展示コーナー

ウ 資源循環 ～サーキュラーエコノミーの推進～



工 安全・安心の確保 ～良好な環境の保全～

○ 安全で安心して暮らせる社会の前提となる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下、騒音、振動、悪臭などへの対策を着実に実施。

大気環境・水環境の保全

- ・大気環境や水環境(河川、湖沼、海域)の監視・測定
- ・工場・事業場等への規制・指導
- ・アスベストの飛散防止対策



河川水質調査

土壌環境・地盤環境の保全

- ・地下水質の監視・測定
- ・土壌・地下水汚染の未然防止、汚染判明時の指導・調査
- ・地盤沈下、地下水位の監視・測定
- ・工業用水法、県条例等に基づく地下水揚水規制



愛知県環境調査センター

騒音・振動・悪臭の防止

- ・騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法に基づく市町村の規制の支援

環境汚染の基盤となる施策・その他

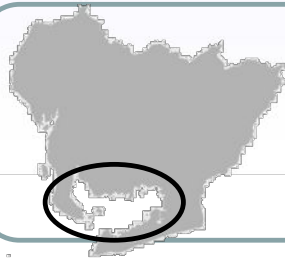
- ・公害防止協定の的確な運用
- ・環境影響評価制度の的確な運用
- ・PCB廃棄物の適正な保管および期限内処理の推進
- ・災害発生時における体制の強化



災害廃棄物図上演習

エ 安全・安心の確保 ～三河湾環境再生プロジェクト～

○ 県民の里海である三河湾の環境を再生し、次の世代へ贈るため、多様な主体により「三河湾環境再生プロジェクトーよみがえれ！生きものの里“三河湾”ー」を実施。



三河湾に関心を持ってもらうため、

- ・三河湾を知ってもらう
- ・三河湾に触れてもらう
- ・三河湾の魅力を高める



三河湾の環境再生に向けて、事業を展開

- ・三河湾について知る、学ぶ機会の提供
- ・里海再生に向けた調査活動
- ・NPO等の活動支援

三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ

- ・三河湾に関わるNPO、企業、業界団体、教育機関、行政等が連携・協働して、プロジェクトを推進
- ・2019年にシンボルマークとサポーターズカード作成

参加型イベント「三河湾大感謝祭」

- ・海の生きものに触れ合う展示、海の幸の試食等

三河湾環境学習会

- ・県立三谷水産高校の実習船「愛知丸」を活用し、水質・底質の調査など体験型学習会を実施

三河湾環境再生体験会

- ・干潟の生きものや水質浄化機能等の観察に加え、干潟の保全活動体験を盛り込んだ体験会を開催



シンボルマーク



サポーターズカード

オ 行動する人づくり ～誰もが学べる環境づくり～

○未就学児童から中高年・シニアに至る世代に応じた持続可能な社会を支える「人づくり」

＜もりの学舎ようちえん＞

四季を通じて自然を体感する
プログラムの実施

＜指導者養成＞

未就学児童向け
プログラムのノウ
ハウを習得



未就学児童

＜環境学習講座＞

「あいち環境学習プラザ」等
で実験等を交えた体験型の
環境学習講座

＜もりの学舎キッズクラブ＞

自然体験型の環境学習

＜あいちの未来クリエイイト部＞

調査・研究とプログラム作成、活用・普及

小・中学生
高校生



＜かがやけ☆

あいちサステイナ研究所＞

パートナー企業から提示された環境課題に対し、
現場調査や企業の方とディスカッションし、解決策を
提案・発信

企業現場で
の研究活動



大学生

＜あいち環境塾＞

各分野で活躍する講師の講義や意見交換を行い、
未来社会へ向けての環境に関する政策や事業モデルを
提言

＜あいちecoティーチャー養成校＞

中高年・シニア世代を環境学習の
講師として養成し、環境学習施設や
イベントなどで講座を実施

社会人
中高年・シニア



オ 行動する人づくり ～ SDGsの普及促進～

SDGs AICHI EXPO

～SDGs 子ども・ユースフェア～

日程：2025年10月3日（金）、4日（土）

場所：Aichi Sky Expo【愛知県国際展示場】

テーマ：子ども・ユース世代の力で進めよう



目的

- ・ SDGsの普及・浸透
- ・ 子ども・若者の行動変容の促進
- ・ アジア・アジアパラ競技大会を契機にアジアの環境問題等に関する意識の向上
- ・ 多様な主体のネットワーク化の促進

内容

企業、学校、NPO等によるブース出展

多様なステージイベント

企業等によるワークショップ

アジアの環境特別展

構成
団体

愛知県

一般社団法人中部SDGs推進センター

環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）

日本青年会議所愛知ブロック協議会

NPO法人愛知環境カウンセラー協会

国際連合地域開発センター（UNCRD）

国際協力機構（JICA）中部センター 等



<https://sdgs-aichi.com/>

SDGsをみんなの手で



オ 行動する人づくり ～SDGs子ども・ユースフェア～



ブース出展

企業、NPO、大学・高校など
151団体がSDGsの取組を紹介



ステージイベント

お笑い芸人による楽しみながら
SDGsを学べるステージ等を実施



ワークショップ

体験等を通じてSDGsを
学べるワークショップを実施



エンディングセレモニー

ユースが一同にステージに集まりエンディングセレモニーを実施

あいち環境イノベーションプロジェクト

- 環境課題の解決に向けて、革新的な技術・アイデアを持つスタートアップ等と連携し、愛知発の環境イノベーションの創出・実装を目指す。
- 採択プロジェクトの伴走支援・実証実験を実施するとともに、「あいち環境イノベーションコンソーシアム」をプラットフォームとして、プロジェクトの社会実装に取り組んでいる。

採択プロジェクト

2024年度	熱を直接電気に変換する熱電発電システム実装 (株)Eサーモジェンテック		次世代型バイオガス発電システム導入 (株)豊橋バイオマスソリューションズ	
	海面最終処分場におけるCO ₂ の回収・固定化 東洋建設(株)		県民の環境行動に伴うCO ₂ 削減量の見える化 (株)スタジオスポビー	
	リサイクル困難な炭素繊維強化プラスチックリサイクル (株)fff fortississimo		100%植物廃棄物由来内装材の製造・リメイク (株)Spacewasp	
	使用済み紙おむつマテリアルリサイクル サハシ特殊鋼(株)		ドローン・AIによる森林モニタリングシステム構築 DeepForest Technologies(株)	
2025年度	カーボンクレジットによる再エネ・省エネ投資促進 (株)バイウィル		AIによるごみの分別・運搬ロボットの開発・実装 (株)Aladdin	
	CO ₂ を排出しない食品残渣等処理システム実装 (株)クロスイー		バイオテックを活用した油脂分解システム実装 (株)フレンドマイクロブ	

伴走支援



実証実験



企業



大学



行政機関

環境イノベーションの創出・実装

あいち環境イノベーションコンソーシアム

〔設立日〕 2025年1月31日

〔構成員〕 企業、大学、金融機関、行政機関など 54団体



あいち
環境イノベーション
コンソーシアム
Aichi environmental innovation consortium

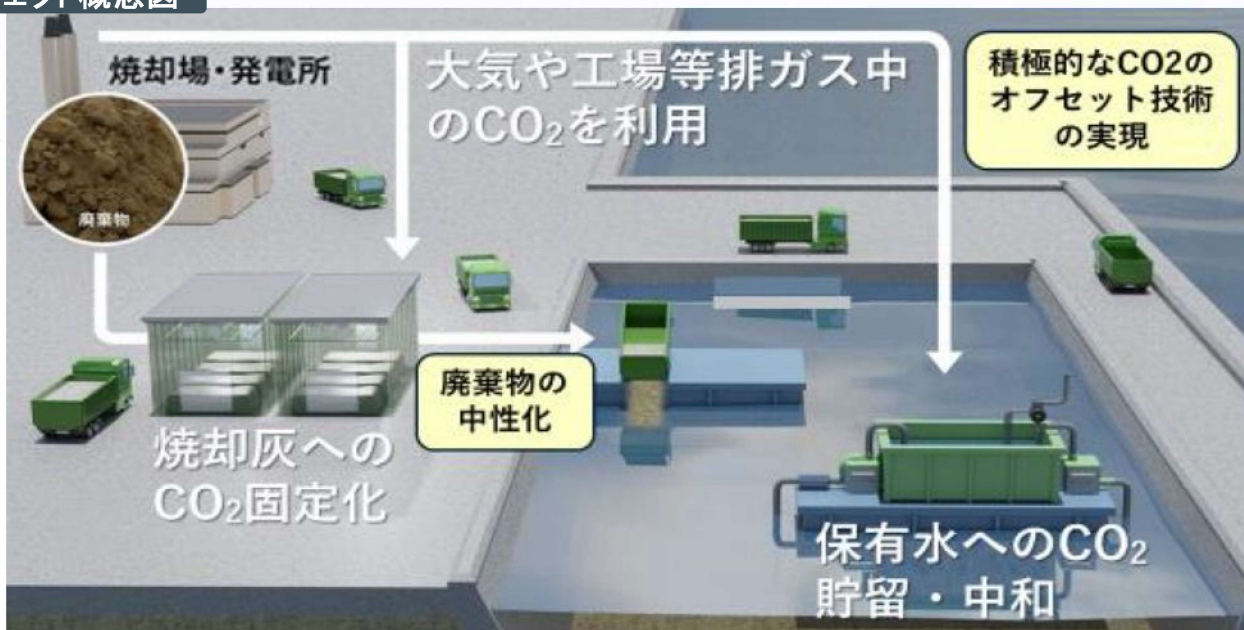


あいち環境イノベーションコンソーシアム発足式
2025年1月31日

海面最終処分場におけるCO₂回収・固定化プロジェクト

- 海面最終処分場の保有水(場内に溜まっている水)等に、工場の排ガスや大気から回収したCO₂を固定化するスキームを構築
- 保有水等は、高アルカリ性でカルシウム濃度が高い。この特性を利用して、CO₂を溶解しカルシウムと反応させて炭酸カルシウム化することによって、CO₂を固定化可能

プロジェクト概念図



2025年度実証実験

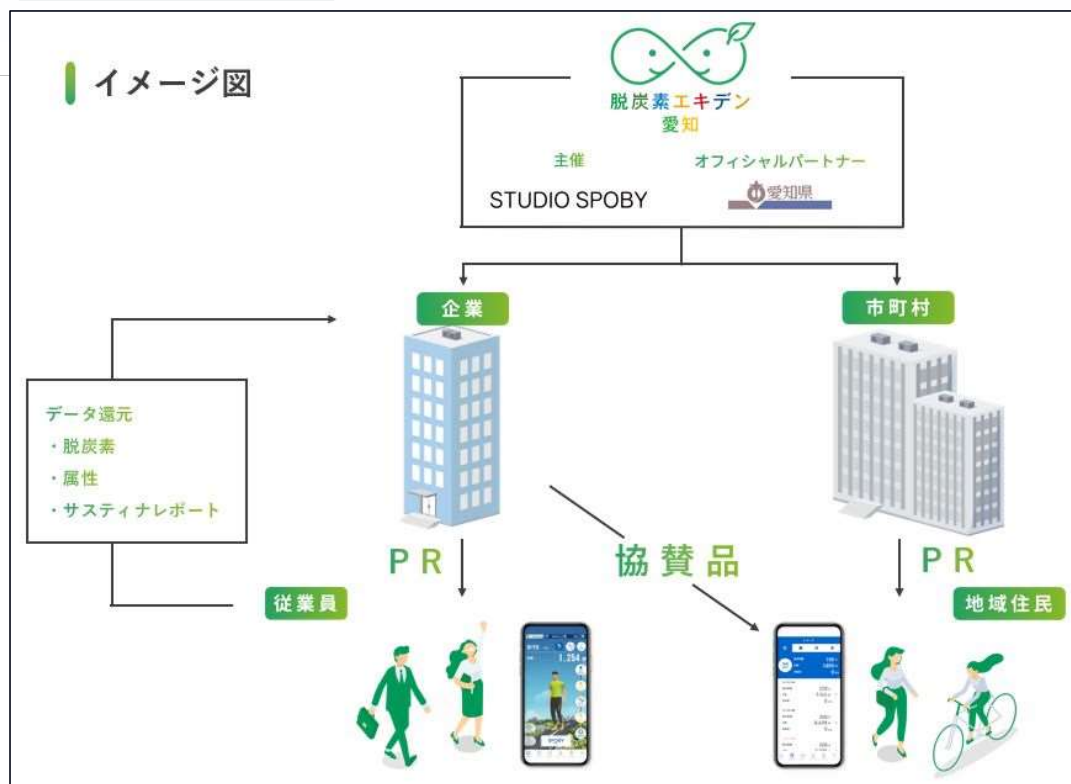
2025年9月から、衣浦港3号地廃棄物最終処分場において、保有水への効果的なCO₂固定化方法を検証する実証実験を実施



県民の環境行動に伴うCO₂削減量見える化プロジェクト

- 徒歩や自転車通勤、マイボトルの持参といった個人の脱炭素行動に伴うCO₂削減量を計測するアプリ「SPOBY(スポビー)」を活用し、個人の日常生活における脱炭素行動を促進
- スマホにダウンロードしたアプリを使ってCO₂を削減した場合、削減量に応じて様々な特典と交換可能

プロジェクト概念図



脱炭素行動の例



2025年度実証実験

2025年4月から、「脱炭素エキデン愛知」と銘打って実証実験を開始

特典交換会



ご清聴ありがとうございました。

The background of the slide features a light blue gradient at the top, transitioning to white. A thin horizontal line separates the top section from the main content area. In the bottom right corner, there are several thick, wavy, light gray lines that sweep upwards and to the left, creating a sense of movement or a stylized signature.